確かな学力の向上をめざして【９月】

■とっとり学力・学習状況調査の活用について ～非認知能力及び学習方略を学校の取組に生かすために～

４年目を迎えた「とっとり学力・学習状況調査」（以下「とっとり学調」）の今年度の結果が、２学期に各学校に返却されます。ご承知のとおり、「とっとり学調」では、「学力レベル」「学習方略」「非認知能力」の３つの伸びや変容を測っています。分析・活用をするにあたり、学習の下支えとなる「非認知能力」と「学習方略」について改めて確認し、今後の学校の取組の成果検証や授業改善に生かしていきましょう。

○学力の向上には、非認知能力や学習方略が高まることが大きく関わっている。
○「主体的・対話的で深い学び」の実施に加え、「学級経営」が子どもの「非認知能力」「学習方略」を向上させ、学力の向上につながる。 **〈埼玉県の調査結果分析より〉**

とっとり学調で測る「非認知能力」「学習方略」について

非認知能力
テストで計測される学力やＩＱなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど、性格的な特徴のようなものです。

学習方略
児童生徒が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）のことです。

とっとり学調質問紙調査では

★「自己効力感」＋（全学年）
「自制心」
「向社会性」
「勤勉性」
「やりぬく力」
→学年ごとに１項目

★「柔軟的方略」「プランニング方略」「作業方略」「認知的方略」「努力調整方略」

児童生徒を伸ばす取組（例）～とっとり学力・学習状況調査　報告書より～

【西中学校】

令和５年度　報告書 第５章

【「人間力」を育てる取組】
学校生活の「型」を身に付ける指導が力を伸ばすための土台となっています。そして、つながりと感動のある学校行事と主体的な生徒会活動をとおして生徒の主体性や自己肯定感が高まり、学習方略・非認知能力の伸びにつながっていると考えられます。

【学級活動・児童会活動の活性化】
教師主導ではなく、児童の思いを出発点として取組を展開。「主体的・対話的で深い学びの実施」の高い値や学習方略の伸びにつながっていると考えられます。

【河北小学校】

令和４年度　報告書 第５章

これまで評価があいまいだった取組も、とっとり学調で数値をもとに評価することができそうだね！

Point

とっとり学調の結果を使って「分析」「評価」「次の取組」へ！

各学校・学級では、めざす学校像や子ども像に基づき、様々な取組を行っていると思います。とっとり学調を活用し、それらを「非認知能力」「学習方略」という視点でとらえ直してみると、その取組が子どものどのような資質・能力を伸ばしているのかが見えやすくなります。各取組のねらいと評価指標を明確にすることで、結果を数値の伸びや変容で評価し、次の取組や改善策につなげることができます。

帳票を活用した一人ひとりの伸びの状況の見取りや分析については、「確かな学力」令和５年１１月号「とっとり・学力学習状況調査の活用～「学力の伸び」～」をご覧ください。